

奈良国立博物館史上最大の仏像展示

当館学芸部美術室長 岩井 共一

本年一月十九日、なら仏像館の展示室に、奈良国立博物館の開館以来、最も大きな彫刻が搬入された。この二月二十三日から、なら仏像館第6室で特別公開されている、金峯山寺仁王門の金剛力士立像（重要文化財）である。阿形が像高五〇五・八センチ、吽形が五〇六・二センチ。国宝・重要文化財に指定されている金剛力士像の中では、日本で二番目に大きな金剛力士像である。ちなみに一番は、当館のすぐ近くにある東大寺南大門の金剛力士立像（国宝）だ。

これまで、奈良国立博物館の展示品で一番大きかったのが、昭和五十九年（一九八四）から平成十年（一九九八）まで、なら仏像館（当時は本館）に安置されていた愛知・財賀寺の金剛力士立像（重要文化財）のうち、像高三七六・五センチの阿形像だった（ただし、平成十二年（二〇〇〇）から十八年（二〇〇六）まで当館で公開していた国宝・唐招提寺金堂の薬師如来立像は、像高三三六・五センチだが、台座や光背を含めた総高は五メートル近くあった）。

これほど巨大な仏像を、なら仏像館に運び込むのは、容易なことではなかった。ま



①何も無い展示室



②展示台設置



③搬入直後の様子



④像本体が立ったところ



⑤腕などを取り付けて安置が完了



⑥足場等を撤去



⑦展示の完成した後の金剛力士像（なら仏像館第6室）

ず、仏像や展示台をすべて運び出して空っぽにし①、そこに新たに免震装置付きの専用展示台を設置した②。次に仏像をつり上げるための足場を設置。仏像館の入口が狭いので、両腕などは一旦取り外した状態で横倒しで木枠に梱包し、ギリギリの幅で入口を通り抜けて搬入③。チェーンブロックを使って像をつり上げて立たせ、木枠を外した④。両腕などの外した部分を接合して安置が完了⑤。足場などを撤去した後⑥、第6室の室内に免震装置付きの展示台を設置してほかの仏像を再安置。最後にそれぞれの仏像のライティングをして、全ての作業が終わった⑦。仏像の展示作業だけで、ほぼ一ヶ月、前後の作業を含め二ヶ月の間、なら仏像館を臨時休館しての大きな作業であった。

二体の像の頭頂と、展示室のルーバー天井（平行に並んでいる横木の部分）までは一メートルあるかないかである。この高さを超える仏像だと、もはや展示室内で立たせることは出来ない。この金峯山寺の金剛力士像は、後にも先にも奈良国立博物館史上最大の仏像展示となるだろう。この大きさと迫力は、写真では伝わらない。ぜひ、ご来館いただいて、その大きさを実感していただきたい。

※金峯山寺金剛力士立像の搬入、展示の模様については当館YouTubeチャンネルでも公開中です。